

# 東京都コロナ支援登録者への実績調査

## I 調査目的

東京都ナースプラザでは、令和2年4月より東京都コロナ支援者登録を開始した。

結果、約6,000人の看護職の登録となり、潜在看護職の顕在化につながった。

令和5年5月8日新型コロナウイルス感染症は5類感染症となり、5月末をもって東京都ナースプラザでの支援者募集も終了となった。

コロナ支援者登録の終了に伴い、就業状況を把握するためアンケート調査を実施し、今後新たな感染症が発生した際の参考とする。

## II 調査概要

### 1 調査期間

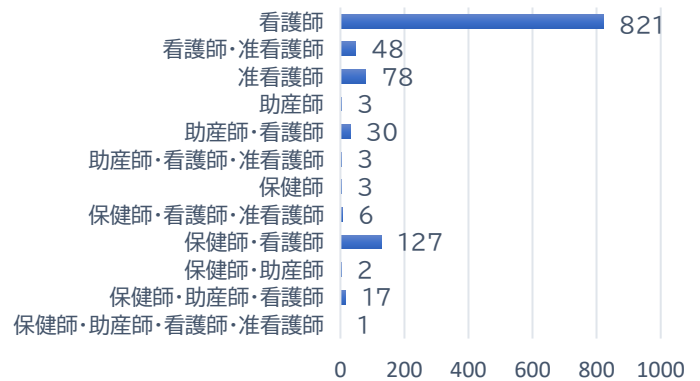
2023年12月1日～2023年12月20日

### 2 調査方法

東京都コロナ支援登録者6,243人のうちメール受信拒否等で連絡困難な人を除いた5,818名にメールで調査を依頼し、Googleフォームで回答。

### 3 調査結果

回答者数は1,139名 回収率は19.6%



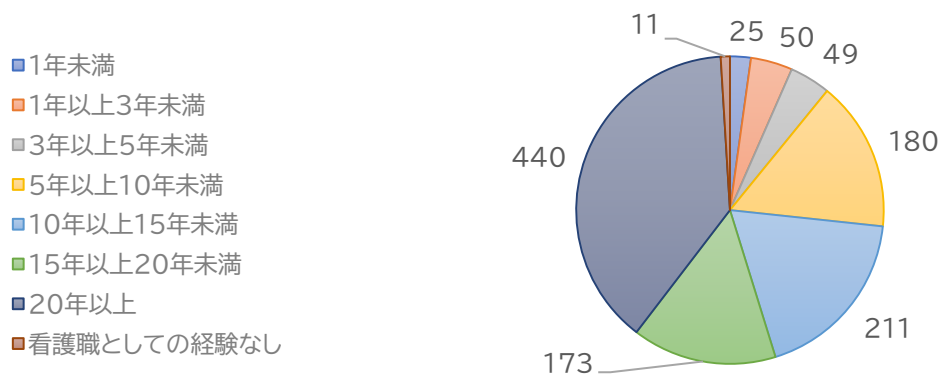
## III 回答者の属性

### 1 資格（取得免許）

看護師のみが821人、准看護師のみが78人、保健師のみが3人、助産師のみが3人であった。他234人は複数の資格を取得している人だった。

### 2 現在の看護職としての勤務経験年数

「経験20年以上」が440人（38.6%）で最も多く、次いで「10年以上15年未満」が211人（18.5%）だった。「看護職の経験なし」は11人（1%）、3年未満は75人（6.6%）で、3年以上の経験者が全体の92.4%を占める。

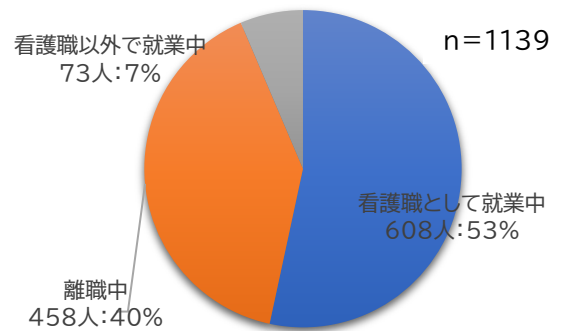


#### IV コロナ支援登録者の就業状況等の詳細

##### 1 コロナ支援登録当時の就業状況

①看護職として就業中だった人が608名（53.4%）と最も多い。

このことから、ダブルワークを目的にした登録者が多かったと考える。



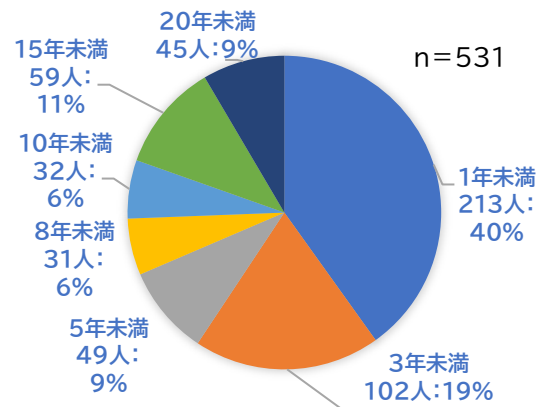
##### ②離職期間

「離職中」「看護職以外で就業」と回答のうち、看護職を離職してから登録時までの離職年数は、

「1年未満」が213人（40.1%）と最も多い。

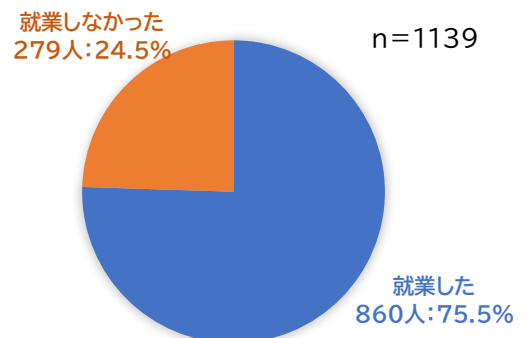
就業希望するコロナ支援登録者の離職期間は

「3年未満」が315人（59%）と短い傾向にあった。



2 コロナ支援者登録後のコロナ関連の仕事への就業の有無  
 コロナ支援者登録後、コロナ関連の仕事に「就業した」は860名（75.5%）、「就業しなかった」は279名（24.5%）となった。

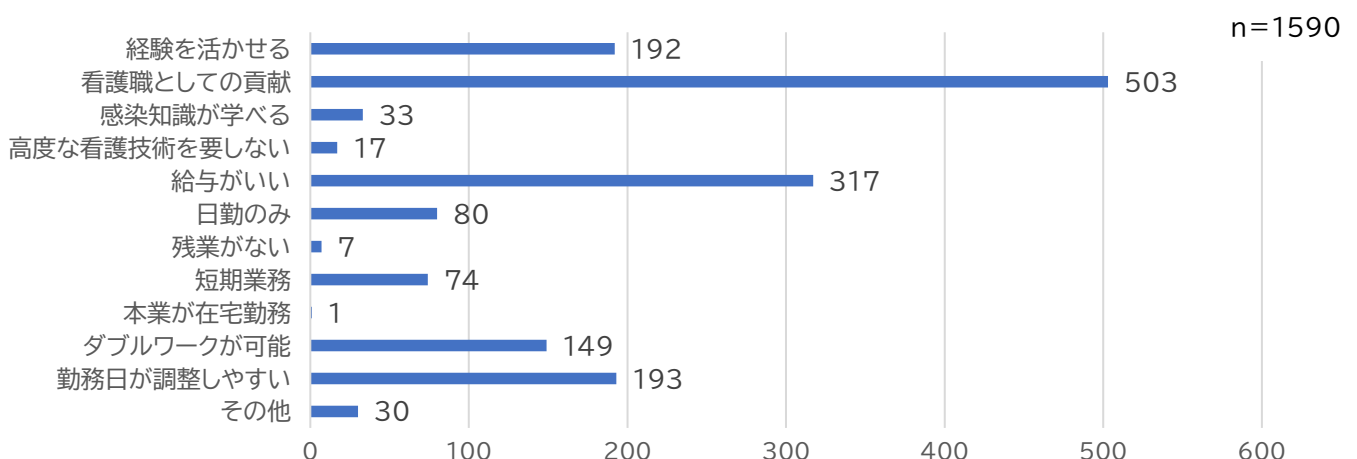
コロナ支援者登録後、7割以上の看護職がコロナ関連機関で看護職として従事し尽力している。



##### 3 コロナ関連機関への就業理由(上位2選択・複数回答)

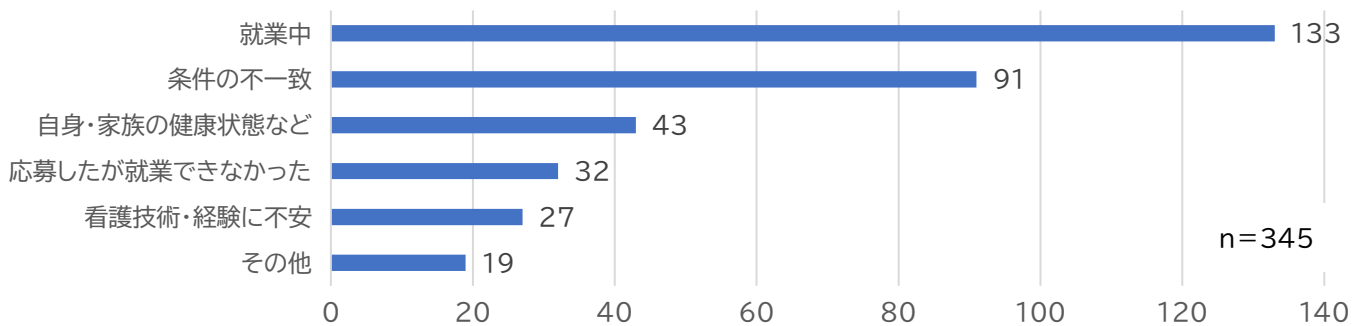
関連機関に就業した860人に対し理由を尋ねたところ、「看護職として貢献したかった」が503人（31.6%）であった。

コロナ関連期間の就業は看護職の専門職の意欲を高められ、高給与でもあり、(ダブルワーク等)働きやすい勤務形態であったことが就業に繋がっている。



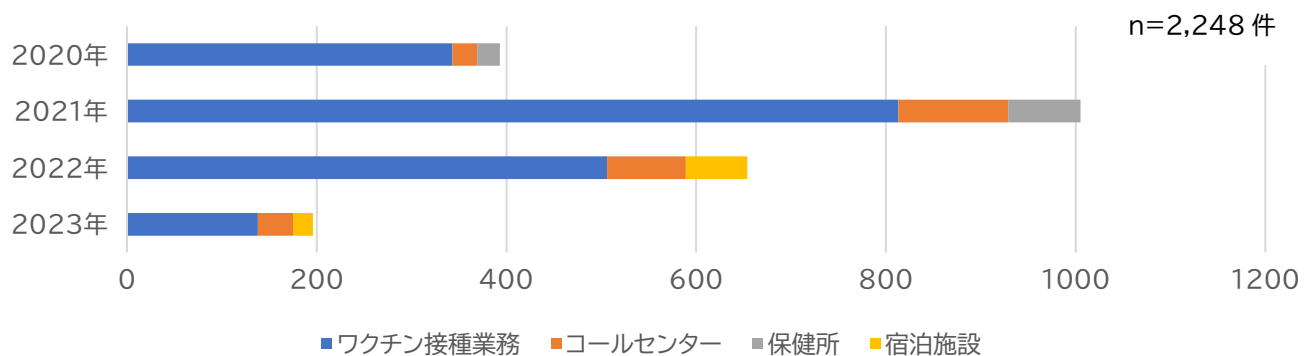
#### 4 コロナ関連機関に就業しなかった理由（上位2選択・複数回答）

コロナ関連機関に就業しなかった279人に対し理由を尋ねたところ、「就業中」と回答した人が133人(38.6%)であった。希望があっても現職を継続する上ではダブルワークが困難な状況があったと推測される。



#### 5 コロナ関連機関の年度別就業施設（複数回答）

コロナ禍になって以降、年度ごとに就業者数の多いコロナ関連施設の上位3つを図に示した。どの年度も「ワクチン接種業務」への就業が最も多く、次いで「コールセンター」となっている。後半期は「保健所」就業が減少し、「宿泊施設」での就業が優位を占める。前半期の「保健所」業務逼迫による報道や求人増による影響と考えられる。



### V コロナ支援者登録時から現在の就業状況の変化

#### 1 コロナ支援者登録前後の看護就業者の推移

コロナ支援者登録時、「看護職として就業中」は53.4%、コロナ支援者登録後「看護職として就業」は75.5%、令和5年12月現在の「看護職として就業中」は68.0%であった。

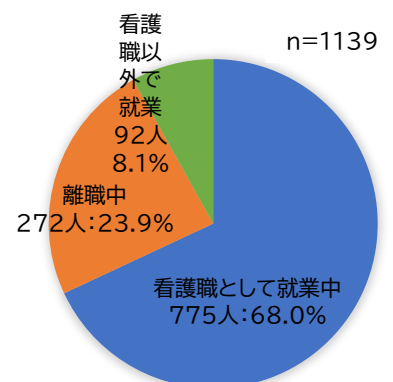
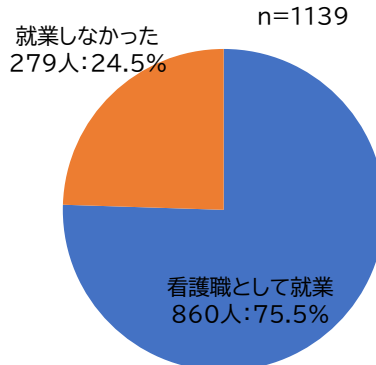
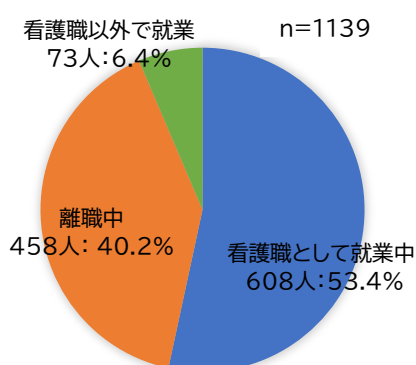
現在の看護職としての就業者は、コロナ関連機関への就業時よりも減少しているものの、コロナ登録時より増加（14.6%：167人）している結果となった。僅かではあるが、コロナ関連施設への就業を契機に看護職としての就業者が増加（14.6%：167人）したといえる。

また、コロナ支援者「登録時」と「現在」の「離職者」「看護職以外で就業」者を比較すると、「離職中」は16.3%（186人）、「看護職以外で就業」は1.7%（19人）減少していることから裏付けられる。

【登録時】

【登録後】（コロナ関連への就業）

【現在】（令和5年12月時点）



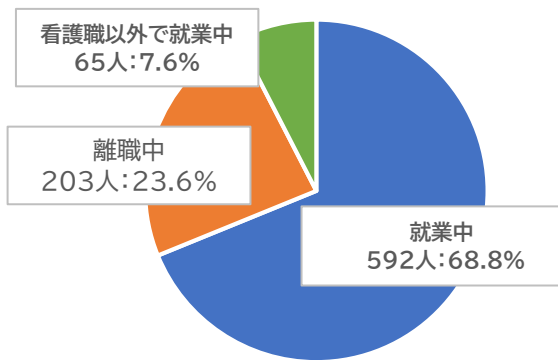
## 2 コロナ関連に就業した看護職と就業しなかった看護職との比較

コロナ関連機関に就業した 860 人中、現在も「就業中」は 592 人(68.8%)、「離職中」 203 人(23.6%)、「看護職以外で就業中」 65 人(7.6%)であった。

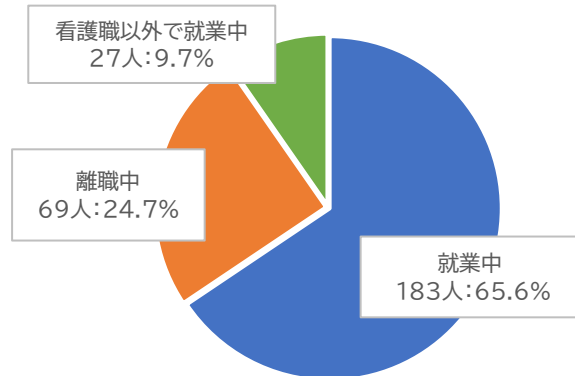
コロナ関連の仕事をしなかった人は 279 人で、うち現在「就業中」の人は 183 人(65.6%)、「離職中」が 69 人(24.7%)、「看護職以外で就業中」が 27 人(9.7%)であった。

約 70%の看護職がコロナ支援者登録以降も就業を継続している。一方で「就業しなかった」看護職も約 65%が就業中であり、コロナ関連機関では就業しなかった理由 (IV-4) で「就業中」との回答が上位であったこともとも合致している。

コロナ関連機関に就業した看護職の現在の就業状況 n=860人



コロナ関連で就業しなかった看護職の現在の就業状況 n=279人



## 3 就業状況の推移

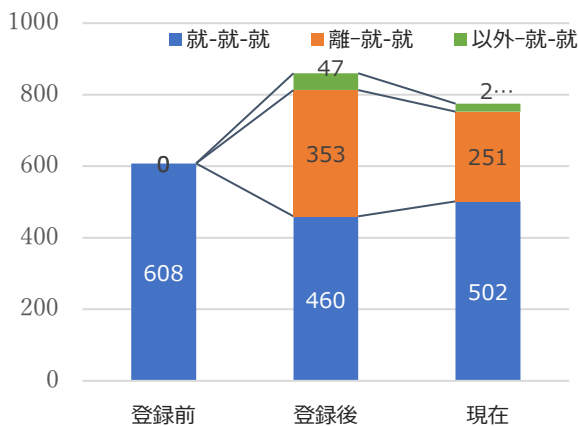
以下は、「コロナ支援者登録時」「登録後」「現在」の就業者の推移を比較している。

なお、図の凡例の「就」は就業中、「離」は離職中、「以外」は看護職以外で就業中を示している。

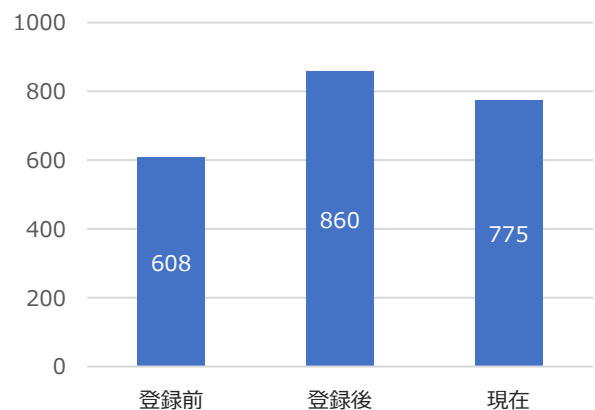
### 【コロナ支援者登録時「就業中」だった看護職の就業状況の推移】

就業者の推移では「コロナ登録時」よりも「現在」の就業者数が増加 (167 人) し、「コロナ登録後」よりも「現在」の就業者数は減少 (85 人) している。その内訳をみると継続就業しているのは 460 人であった。

「就業中」の就業状況の推移

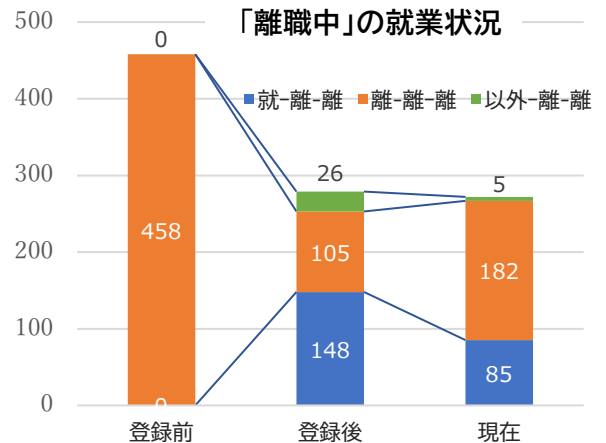
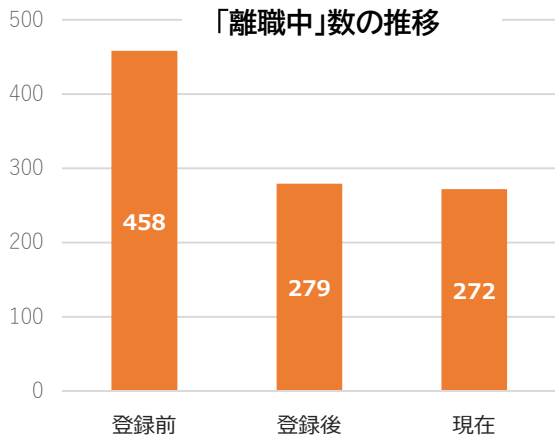


「就業者」数の推移



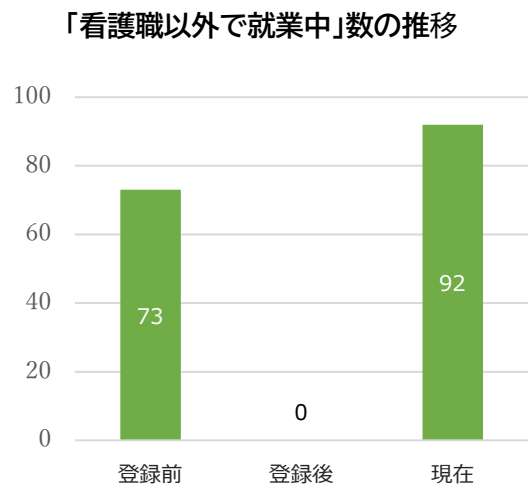
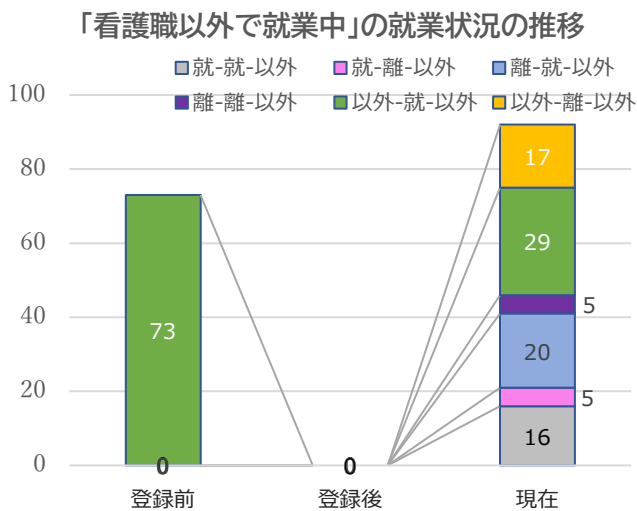
### 【コロナ支援者登録時「離職中」だった看護職の就業状況の推移】

コロナ支援者登録時よりも「現在」の「離職中」の看護職は458人から272人へと減少(186人)している。「離職中」数はコロナ支援者「登録後」と「現在」とほぼ変わらないという結果となった。その内訳をみると、離職者は登録後105人に減り、現在は182人となっている。また登録後、離職した148人が85人となり、現在67人が復職していることがわかった。看護職以外での就業していた人も登録後26人が離職したが、現在5人と減少(21人)し、コロナ禍を契機に就業に繋がったとも考えられる。



### 【コロナ支援者登録時「看護職以外で就業中」だった看護職の就業状況の推移】

「看護職以外で就業中」の看護職は、コロナ支援者登録時73人だったが「登録後」はゼロとなった。現在は「看護職以外で就業中」73人が「登録前」より19人増加し、92人となっている。コロナ支援者登録後、29人が看護職として就業(29人)したが、現在は「看護職以外で就業中」に戻っている。また「登録時」に「看護職以外で就業中」だった看護職は登録後「離職中」になったものの「現在」も17人が「看護職以外で就業中」となっている。「看護職以外で就業中」の看護職はコロナ感染拡大により就業状況は変化したものの、再度「看護職以外で就業中」(46人)となる傾向がみられた。

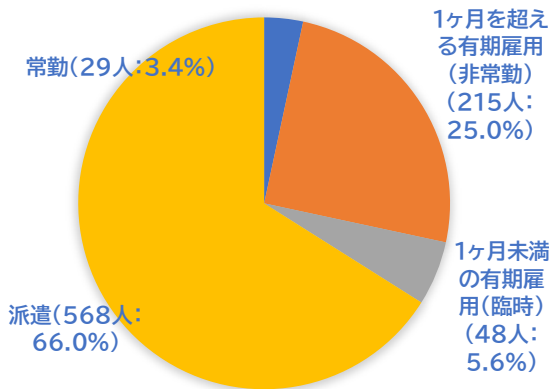


#### 4 雇用形態の推移

コロナ関連機関では「派遣」での就業が多く、現在は「1ヶ月を超える有期雇用」(直接雇用)での就業が多い。コロナ関連機関での就業と現在の就業とでは雇用形態に差異があり、コロナ関連機関は「派遣」求人が多く、直接雇用の求人が少なかったことが影響している。

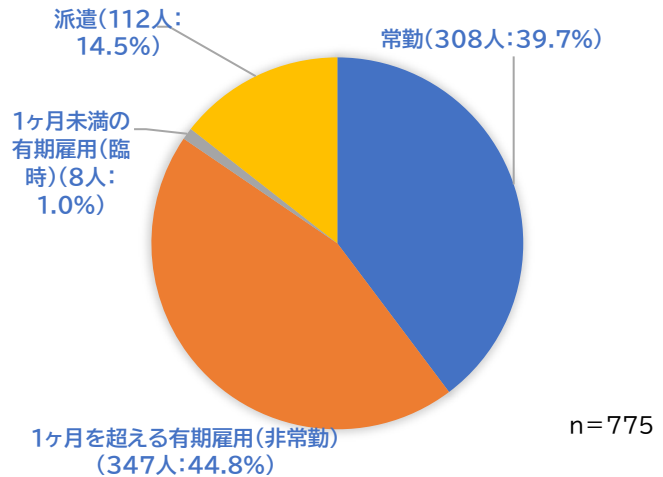
コロナが5類感染症となり、コロナの求人がなくなり、雇用期間が長く安定した直接雇用に就業する傾向にある。

コロナ関連に就業した際の雇用形態※



※コロナ関連就業1回目の雇用契約

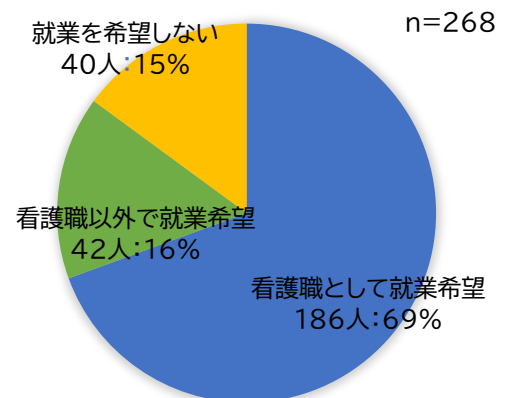
現在の雇用形態



#### VI 離職中(未就業)の看護職の就業意向

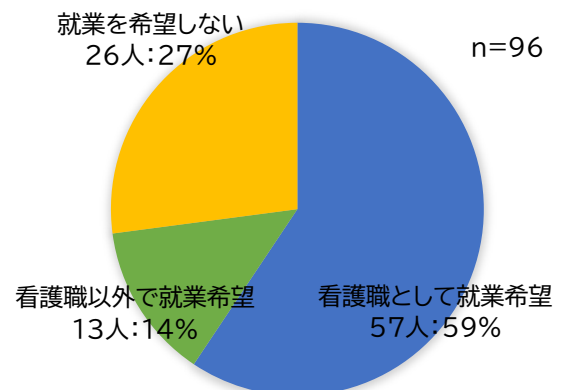
1 コロナ関連機関に就業し、現在「離職中」の看護職の意向  
 コロナ関連で就業したが、  
 現在看護職として就業していない看護職 268人  
 (「離職中」203人、「看護職以外で就業中」65人)のうち、  
 「看護職として就業希望」が186人と約7割を占めた。

コロナ関連機関で就業した看護職



2 コロナ関連機関に就業せず、現在「離職中」の看護職の意向  
 コロナ関連機関には就業しておらず、  
 現在も看護職として就業していない看護職 96人  
 (「離職中」69人、「看護職以外で就業中」27人)のうち、  
 「看護職として就業希望」が約6割であった。

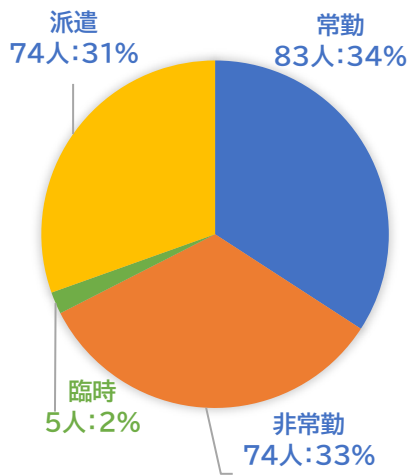
コロナ関連で就業しなかった看護職



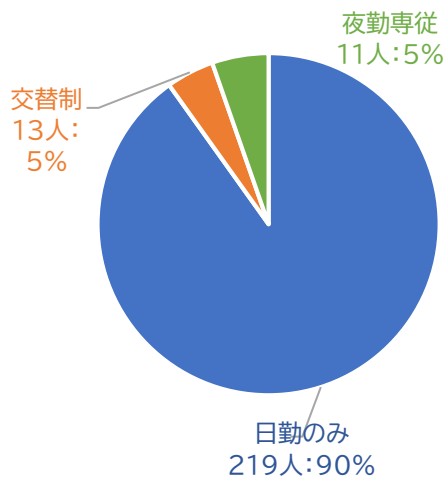
### 3 求職者の希望条件 (n = 243 人)

コロナ関連機関での就業の有無に関係なく、243 人 (66.8%) が看護職としての就業を希望している。  
就業希望の条件については下図に示す。

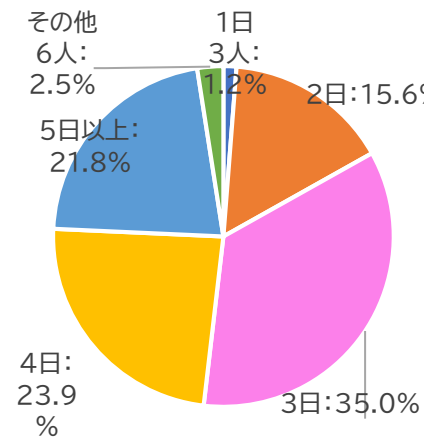
【雇用形態】



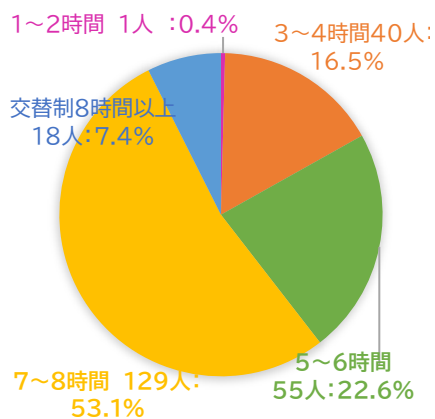
【勤務形態】



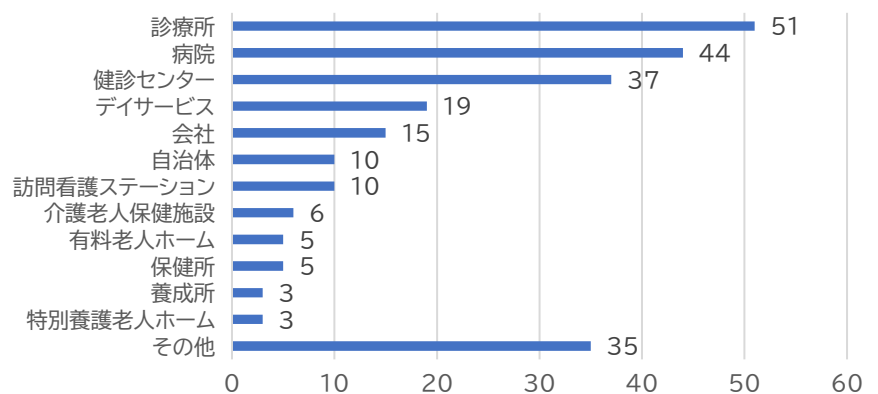
【勤務日数 (週)】



【勤務時間 (日)】



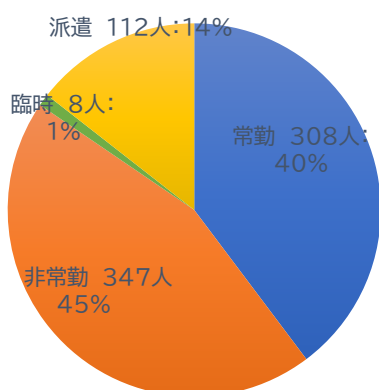
【希望施設種別】



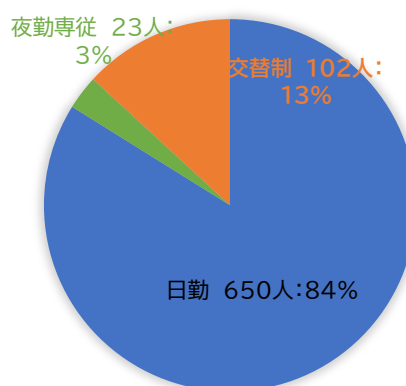
### VII 現在「就業中」の看護職の就業状況 (n = 775)

離職中 (未就業) の看護職の就業希望 (VI-3) と比較すると、雇用形態では非常勤が常勤よりも上位となっており、勤務形態は「日勤」のみが8割以上、勤務日数は「週5日以上」が約4割を占める。勤務場所は「診療所」での勤務が優位を占めた。非常勤が常勤よりも上位となっている点に差異があるが、日勤のみの求人は常勤よりも非常勤が多いため、就業するにあたり雇用形態よりも勤務形態を優先している傾向がうかがえる。

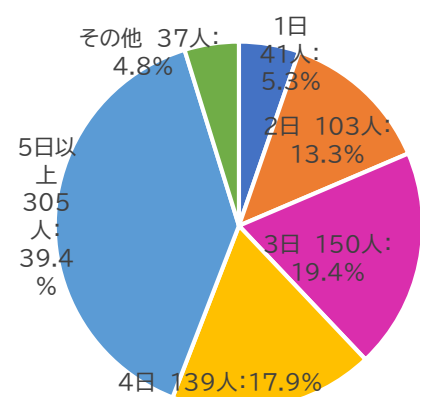
【雇用形態】※



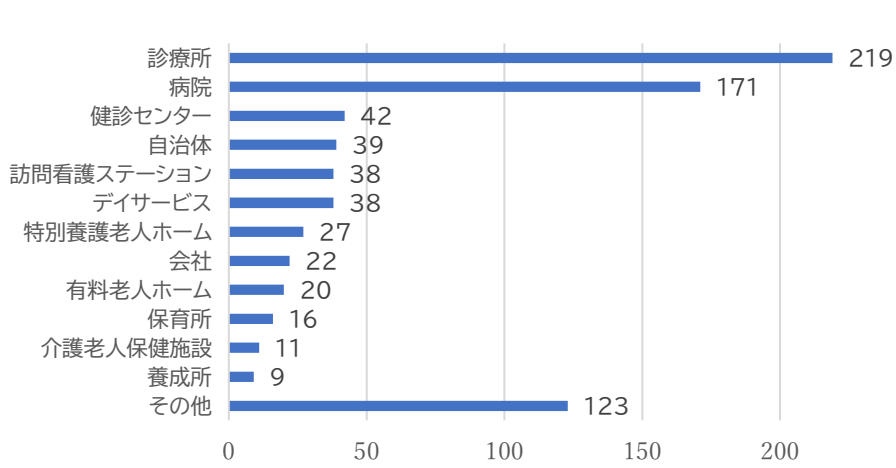
【勤務形態】



【勤務日数】



### 【就業施設種別】



※常勤:無期雇用

非常勤:1ヶ月を超える有期雇用

臨時:1ヶ月未満の有期雇用



